

施策番号	551	施策名	住民のまちづくりの推進	令和4年度主管課名	まちづくり課
総合計画体系	政策名	5	みんなでつくる里づくり	令和4年度課長名	柳井 和彦
	関係課名			シート作成者	山本 泰成

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	7年度
ア 町民	→	ア	人口	人	見込値			11,800	11,627	11,280
						実績値	12,625	12,497	12,358	
イ 自治会	→	イ	自治会数	団体	見込値			93	93	93
						実績値	93	93	93	
ウ	→	ウ			見込値					
						実績値				
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	7年度
ア 積極的に行政活動に参加してもらおう	→	ア	地域で実施されている活動に関心がある町民の割合	%	目標値	60	50	51	52	54
					実績値	56.3	48	54.3		
					達成率	93.8%	96.0%	106.5%	104.4%	100.6%
イ 参画意識を持ってもらおう	→	イ	地域で実施されている活動への参画意識を持っている町民の割合	%	目標値	30.0	11.0	12.0	13.0	15.0
					実績値	12.7	35.9	41.8		
					達成率	42.3%	326.4%	348.3%	321.5%	278.7%
ウ 積極的に地域づくり活動をしてもらおう	→	ウ	地域活動等に参加している町民の割合	%	目標値	55.0	45.0	47.0	49.0	55.0
					実績値	45.3	39.5	42.9		
					達成率	82.4%	87.8%	91.3%	87.6%	78.0%
エ	→	エ			目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標設定の考え方	ア) 行政活動や政策への関心が高まれば、活動に参加してもらえる人数が増加すると考えられるため。 イ) 活動参画意識の割合により、意識の高低がわかると考えられるため。 ウ) 意図に対する直接的な設問であるため。			⑥ 成果指標の把握方法と算定式等	ア)イ)ウ)町民アンケートにより把握					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 自主的・自発的に行政活動や地域行事に参加する。 地域が主体性を持ち、自ら地域活性化のための活動を企画するとともに実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 町民が行政活動や地域行事に参加できるよう、十分な情報提供を行い、積極的な参加の推進を図る。 地域の主体的な活動に対し、未来・希望基金事業などを通じて支援を行う。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
4年度の評価結果	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)
	<ul style="list-style-type: none"> 他団体の資料がないため、比較できないものの、岡山県の実施する元気集落事業等、地域住民が主体となる活動に対する補助金交付等の類似事業は県内各地で展開されている。隣の津山市においては、財源的な要因もあり、令和2年度からの事業を縮小する判断がなされた。E38:AB52 鏡野町の場合は、平成22年度から鏡野町未来・希望基金事業を立ち上げ実施しており、令和4年度で13年目を迎えたが、ここまで継続されているまちづくり事業は、県内でもあまり例がない。
	<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る
	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)
	<ul style="list-style-type: none"> 「地域で実践されている活動に関心がある」町民の割合は、ほぼ50%程度で推移していたが、令和4年度は54.3%と令和3年度より6.3ポイント高くなり、過去5年間の平均値も向上してきている。要因としてはコロナ禍で地域外への外出が減り、地域での活動が制限されたことにより関心が増したと思われる。 「地域で実施されている活動への参画意識を持っている」町民の割合については、令和3年度より増加し、2年連続で向上した。要因としては未来希望基金事業の第3期目の3年目であり、事業が活発であったためと思われる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
	③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)
	<ul style="list-style-type: none"> 他団体の資料がないため、比較できないものの、岡山県の実施する元気集落事業等、地域住民が主体となる活動に対する補助金交付等の類似事業は県内各地で展開されている。隣の津山市においては、財源的な要因もあり、令和2年度からの事業を縮小する判断がなされた。 鏡野町の場合は、平成22年度から鏡野町未来・希望基金事業を立ち上げ実施しており、令和4年度で13年目を迎えたが、ここまで継続されているまちづくり事業は、県内でもあまり例がない。
	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	
<ul style="list-style-type: none"> 町民が自主・自発的に行う公益的なまちづくり活動・地域活動に対し、地域課題を協働で解決できるように、地域と行政の相互補完的な関係を目指すため鏡野町未来・希望基金事業を実施しており、制度としては定着している。第3期の期間もあと2年となり、第4期も事業を継続して欲しいといった意見が多い。 町民との意見交換の中で、鏡野町未来・希望基金事業実施にあたり、事務量が多く煩雑で対応が難しいといった意見もあるが、こうした課題解決に向けて支援をしていく必要があると考えている。 	
3. 施策の振り返りと総括(4年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	
① 施策の成果向上につながった主な事務事業	鏡野町未来・基金事業
② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	地域活性化支援事業
③ 施策全体の振り返りと総括	
<ul style="list-style-type: none"> 各地域づくり協議会の伴奏支援として「地域活性化支援事業」をNPO法人みんなの集落研究所の力も借りて取り組んだ。令和4年度は5つの地域づくり協議会に対して個別支援を行った。その中で小田地区地域づくり協議会は新たに支援を行った。 各協議会の事業にアドバイス等をしてもらうことで、事業がスムーズに有効的なものとして実施できている。 鏡野町地域づくり連絡協議会で、各地域づくり協議会の代表者が集まり、状況について情報を共有し、今後の事業改善を図っていくことが出来た。 	
4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)	
① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	地域活性化支援事業
② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向	
<ul style="list-style-type: none"> 第3期未来・希望基金事業(5年間)も後半になっているが、今後も、地域が主体となって地域活動を実践することは事務作業等が多く容易ではないので、伴走支援をして地域の自立に向けた活動をしていく。 現在の鏡野町においては、地域活動に参加している町民の割合は地域間で差があり、また、年齢層でも参加率が違うので、子どもから高齢者全ての方が地域行事に参加してもらえるように地域内でのコミュニケーションを図ってもらう。 	